俳句を楽しむ

台湾・中国文化大学推広部　澤田尚美

以前、中級の実践で台湾で日本語を勉強している社会人クラスのことについて記事を書かせていただきました。それから１年経った現在も、このクラスの皆さんは日本語の勉強を続けています。「日本語で小説を読んでみたい」という声に応えて、１週間１回、日本語で小説を読むクラスとなりました。今は荻原浩の『海の見える理髪店』を少しずつ読んでいます。難しい！と言いながらも、中国語で読むより小説の雰囲気が味わえると言って、皆さん、楽しんでいるようです。

授業では小説を読むだけではなく、いろいろなものを「日本語で読む」こともしています。同僚の虞安寿美先生から「イーストウエスト校内句会の俳句をクラスで読んでみた」という情報をいただき、そうだ！小説クラスでも俳句を鑑賞してみようと思い立ちました。

実は、このクラスの皆さん、自分で俳句を作った経験があります。『できる日本語中級』の９課「言葉を楽しむ」の【できる！】で俳句作りに挑戦しました。そして、私や周りの人々に選句をお願いして、句会を行ったことがあります。

句会で三位になった黄さんと

今回は「日本にいる留学生が作った俳句を鑑賞しましょう」といって、俳句を味わうことにしました。すると、俳句を見ながらいろいろなコメントが出てきました。まず、真っ先に

7　菊が咲き　誇る上海　太い蟹

の句が目についたようで、「これは絶対上海の学生が作った俳句です！」の声が笑いとともにあがりました。

クラスでは、まずは一人で 20 の俳句をじっくり見てもらい、それから、3人グループになって、それぞれの俳句の情景やどんなことを伝えようとしているのかを一緒に鑑賞し、自分がいいと思った俳句を紹介しあってもらいました。

20　風吹いて　尽きない思い　彼岸花

「これはちょっと悲しい俳句ですね」「あ、『彼岸花』の意味を知っているんですか」「知ってますよー」と、クラスメイト同士でのやり取りがありました。

18　空仰ぎ　離れていても　同じ月

「先生、この俳句を作ったのは留学生ですか」「はい」「あー、この気持ち、よくわかります」「ああ、張さんも留学していたから」「はい、あのとき、友

達が誰もいなかったから、寂しかったです」と、自分のことと重ね合わせて俳句を鑑賞している姿も見られました。グループでの話し合いは 10 分くらいと思っていたのですが、それぞれの俳句について、これはこんなことを伝えたいんだ、いやいやそれは～と個々人の解釈がやり取りされていて、話し合いの時間を切り上げるのが残念に思われるほどでした。この様子を見ていて、1 年前よりも皆さんの日本語力が着実に伸びていることが感じられました。そして何よりもうれしかったのは、ことばに対する感覚が豊かになっていて、俳句に書かれている情景を想像して、楽しんでいる様子でした。

結果がどうなるのか、皆さんと一緒に楽しみに待っています。